

公開講演会

# ドイツにおける盲導犬発展の歴史 —第一次世界大戦の戦争犠牲者援護の文脈から—

日時

2018年7月21日(土) 14:00～18:00

会場

戸山キャンパス 39号館6階 第7会議室

講演者

北村 陽子(名古屋大学准教授)

名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程を経て博士(歴史学)。専門はドイツ史。論文に「ドイツにおける世界大戦と福祉—盲導犬発展の歴史—」『軍事史学』第53巻第4号、「第二次世界大戦下の戦争犠牲者問題—フランクフルト・アム・マインを事例に—」『歴史と経済』第239号、「西ドイツ「原子力村」の核スキャンダル—核燃料製造企業の立地都市ハーナウのイメージ—」若尾祐司・木戸衛一編著『核開発時代の遺産—未来責任を問う—』(昭和堂、2017年)などがある。2018年4月より名古屋大学大学院人文学研究科准教授。

第一次世界大戦開戦当初、傷病により除隊した戦争障害者たちへの公的支援は軍事年金に限られていたが、自治体や民間慈善組織は医療、職業教育、就労斡旋、農村への移住支援により、彼らの生活を支援した。ドイツ救護犬協会は、戦争失明者の自立的生活を助けるために、1916年から救護犬を盲導犬に育成し提供した。戦争障害者と戦没兵士遺族への国家援護を定めた戦後の法律で、盲導犬の無償貸与は戦争失明者の請求権として認定された。本報告では、盲導犬の前身である救護犬と軍隊との関係、盲導犬が国家援護のなかの一つの権利として制定される過程、盲導犬を含めた戦争犠牲者援護のドイツ社会における意味について考える。

◎ プログラム ◎

14:00～14:10 開会挨拶

14:10～15:40 講演「ドイツにおける盲導犬発展の歴史

—第一次世界大戦の戦争犠牲者援護の文脈から—」

15:40～16:00 休憩

16:00～18:00 討論

\* 司会: 谷口眞子(早稲田大学文学学術院)

主催・問合せ